

日舞師範 泉紫峰さん・彩菜さん親子

八戸小唄踊り継ぐ

八戸

例年7月に開催される八戸市中心街の夏の風物詩「八戸小唄流し踊り」（東奥日報社主催）。八戸小唄の誕生40周年を記念し1971年に始まり、市民に愛されてきた。

3年連続の中止となったものの、参加者や指導者として長く携わってきた同市の泉紫峰さん（78）と娘の彩菜さん（50）＝いずれも日本舞踊泉流師範＝は、伝統を絶やさない地道に活動を続けている。

（白鳥遼、相澤賢斉）



八戸小唄への思いを胸に、八戸市公会堂で優雅な踊りを披露した紫峰さん



八戸学院大短期大学の学生に踊りを指導する彩菜さん

「来年こそ本番で」

16日に市公会堂で行われた市老人クラブ連合会の芸能発表大会。紫峰さんは主催者側の依頼を受け、特別出演としてトリを飾った。来場者の注目が集まる中、八戸小唄の1節が含まれる詩吟「八戸小唄に寄す」に合わせて流し踊り

などを披露、引き続き正調八戸小唄でも優雅に舞った。「（八戸小唄流し踊りの中で）止が続く中で、この演目をやるしかない。温かい拍手をいただき、踊り継ぐことにさらに力を入れなければと思っ」と終了後の舞台裏で充実

感を得た。「来年の八戸小唄流し踊りでは、3年分の思いを爆発させたい」紫峰さんと彩菜さんは翌日の17日、同市の八戸学院大短期大学で八戸小唄流し踊りの講習を行った。「肘を曲げないで、足の動きをそろえて」。彩菜さんの指導を受けてながら、学生約200人が一つ一つの所作を学んだ。八戸小唄流し踊りに毎年参加している同校。八戸の伝統を学び、次代に継承したいと講習を実施している。今後1カ月ほどの練習を経て、7

月15日に学内発表を行う予定。小学2～5年生の頃に彩菜さんから踊りを習っていたという成田琉奈さん「幼児保育学科1年」は「久しぶりでも体が覚えていた。学内発表にしっかり備えたい」と話した。彩菜さんは「3年連続中止で、多くの人から八戸小唄流し踊りの開催を待ち望む声を聞く。学生たちが踊りに取り組むことは、次代への継承につながる。来年こそは本番で踊って街を盛り上げてほしい」と話した。